

## 科学基礎論学会 発表主旨

### ワークショップ「Aspects of the phenomenology of perceptual experience」

知覚経験の内容の詳細な分析は、かつては狭義の「現象学」の専売特許であり、分析哲学においては、認識論的興味に基づいた知覚の分析が主だったものであった。しかし近年、心の哲学、そして認知科学や神経科学の発展に伴って、分析哲学においても知覚経験の様々な側面についての議論が成熟してきた。そこで今回は、次の三つの側面—知覚経験の規範的性格、高次カテゴリの現象的内容、現象的内容の不確定性と現象学の報告可能性の関わり—について、提題者が論争状態をまとめ、それぞれの見解を提出する。

※注 発表は英語で行われる。質疑応答も原則英語で行うが日本語での質問も受け付ける。